



能登半島地震への支援活動に向けて

日本防災士会理事長 室崎 益輝

新年早々、能登半島で大規模な地震が連続的に発生し、極めて深刻な被害がもたらされています。短期間に大規模な地震が何度も繰り返される中で、家屋倒壊、津波襲来、山地崩壊、市街大火などの複合と相乗により、被災地と被災者は絶望的な状態に追い詰められています。ライフラインが壊滅して、孤立した集落が数多く発生し、支援の届かない被災者もおびただしい数発生しています。

こうした状況にあって、「助けられる人から助ける人へ」を活動理念とする日本防災士会は、被災者と被災地に寄り添って、会員相互のネットワーク力を最大限発揮し、被災地の被害の拡大防止と希望の回復のために力を尽くさなければなりません。防災士と防災士会の真価が問われているのです。防災士会としての『リーダーシップ』と『パートナーシップ』を発揮して、減災と復興に貢献したいと思います。

無理をせず出来ることをできる形で、小さな力でも熱いところざしをもって、みんなの力を合わせるにより、防災士会としての大きな支援力が生み出されます。みんなでみんなを助ける大運動を展開したいと思います。ひとりでも多くの皆さんの力をいただき、ひとりでも多くの被災者に力をあたえることが、防災士会に求められています。

地域密着型を標榜する日本防災士会は、被災地の防災士や支部の支援活動を基軸にしつつ、その背中を物心両面で応援してゆくことにします。被災地と被災地支部に、しっかりとした日本防災士会のコーディネーションのもとに、必要とされるヒト・モノ・カネ・スキルを、後方支援の形で届けたいと思います。すべての支部とすべての防災士がつながって、支援活動を展開したいと思います。

独りよがりにならずチームプレーに徹する、公的機関や民間団体との相互信頼の関係を大切にする、他の防災士や防災リーダーと手をつなぐ。日本防災士会としての支援活動の新しい地平を拓くために、全会員の総力を結集して下さい。